

気象庁における地震波形データの収集方法の変更

Changes of the process of collecting Earthquake waveform data in JMA

郷家 幸治[1]

Kouji Gouke[1]

[1] 気象庁地震火山部

[1] JMA

気象庁は、ナウキャスト地震情報提供への取り組みの一環として、東海地域、東南海・南海地域を中心に多機能型地震観測装置（ナウキャスト地震情報対応型地震計）の整備を行った。この整備は、従来の気象庁の地震観測装置を構成するテレメータ等の一部機器をナウキャスト処理等の演算を可能となるようインテリジェント化し、さらに、地震波形データやナウキャストデータ等の多種のデータ伝送を可能とするためネットワーク機器の強化を行うものである。

本講演では、多機能型地震観測装置の整備に伴い、気象庁の地震波形データ等の収集方法を変更したことから、地震波形等のデータの新しい収集形態について報告する。特に、気象庁は津波予報等の緊急業務を担っていることから地震波形データの収集時の遅延は許されないため、リアルタイム性を確保しつつ安定してデータの収集を可能とする仕組み等について紹介する。